



あおば 児家センだより



2026年 4月
第17号



児童家庭支援センターあおば
福島市土船字新林24番地 児童養護施設青葉学園内
電話・FAX 024(597)8823

・・・令和8年度の児家センあおばがスタートします・・・

開設から6年目に入る児童家庭支援センターあおばは、地域に開かれた相談センターとして、子どもの養育への悩みやお子さんの心配ごとに寄り添った伴走的支援を行っています。また、県北8市町村のニーズを把握し、家庭や地域生活を支え、児童虐待の発生を防ぐための活動に努めてまいります。

お気軽に上記電話番号まで相談等のご連絡をよろしくお願いいたします。

新年度からセンター長、主任・相談支援担当、里親支援担当、心理・相談担当2名（1名は5月から）、子育て支援担当、相談支援担当の7名で運営してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

職員紹介

| | | | |
|---------|--|---------------|---|
| センター長 | 開設から6年目に入る児童家庭支援センターです。地域の皆様に気軽に利用していただける身近な相談機関を目指します。 | 主任 相談・支援担当 | 毎日の子育て本当にお疲れ様です。「困った」という気持ちに寄り添い、一緒に考えていきたいです。安心してお話してください。 |
| 里親支援担当 | 里親について知りたい方はぜひご連絡をしてください。子供達のために一緒に学び、里親里子さんを応援しましょう。 | 心理・相談担当 | 子どもやご家庭の思いに丁寧に耳を傾け、安心して話せる関係を大切にしながら、心理的な視点から支援に取り組んでいます。 |
| 子育て支援担当 | 私は子どもが大好きです。話も花も好き。皆さんと触れ合っ て楽しく過ごしたいばあちゃん なので、よろしくお願いいたします。 | 相談・支援担当 | 「子どもの自立」のために子育てで悩んでいる皆さんのお話をじっくりお聴きします。児家センに、お気軽にご相談ください。 |

児童家庭支援センターあおばの取り組み

*タイトルの児家センとは、児童家庭支援センターの略称です。

来所相談

- ・児童家庭支援センターあおばに来所して行う相談

電話相談・訪問相談

- ・電話による相談
- ・家庭訪問による相談や関係機関への訪問相談

各種プログラム

- ・ペアレントトレーニング講座・子育てセミナー
- ・子どもの居場所支援 ・子育てサロン

里親支援・連携

- ・里親の悩み相談、里親候補の方のための支援

季節の一句、親のまなざし【春編】

桜の花びらが舞い、新しい生活が始まる春。入園、入学、進級—環境の変化に、子どもも親もドキドキする季節です。ペアレントトレーニングの知恵を織り交ぜた春にちなんだ俳句をご紹介します。小さな句に込めた子どもとの時間のかけらを手がかりに、自分らしい関わりを見つめ直すひとときにしませんか？

句① ランドセル 一人でしょえた ギゅっとハグ

新しいランドセルを背負って、玄関に立つ子どもの姿。少し大きすぎるランドセルが、一生懸命さを物語ります。「自分でできたね」「かっこいいよ」—そのひとことと、ぎゅっとしたハグが、不安な気持ちを勇気に変えてくれます。新しい一歩を踏み出すとき、子どもが一番必要としているのは、「あなたならできる」という親の信頼のまなざし。小さな「できた」を見逃さず、その瞬間に伝えることが大切です。



句② 泣いて帰る 話を聞いて うなずくだけ

新しい環境に慣れない日々。園や学校から帰ってきて、「行きたくない」と涙を流す子ども。つい「大丈夫だよ」「頑張ると」と励ましたくなりますが、まずはじっくり話を聞いてみましょう。「そうだったんだね」「さびしかったね」—否定せず、ただうなずいて受け止める。それだけで、子どもは「わかってもらえた」と感じ、少しずつ心が落ち着いていきます。解決策を急がず、気持ちに寄り添う時間が、子どもの心の安全基地になります。



句③ 朝ぐずり 怒る前に 理由を聞く

春の朝、新しい生活リズムに慣れず、なかなか起きられない、着替えたがらない—そんな「朝ぐずり」が増える時期でもあります。イライラして「早くしなさい!」と言いたくなったり、ひと呼吸おいて「どうしたの?」と聞いてみる。眠い、服が気に入らない、不安—子どもなりの理由があるかもしれません。理由がわかれば、一緒に解決策を考えられます。叱る前の「なぜ?」が、親子のコミュニケーションを変えていきます。



句④ 桜道 手をつなぎ行く 小さな背

満開の桜の下、子どもと手をつないで歩く通園・通学路。去年より少し大きくなった背中を見ながら、「ちゃんと成長しているんだな」と実感する瞬間。でも同時に、まだまだ小さくて、不安な気持ちも抱えている—そんな子どもの「今」を、そのまま受け止めてあげたいですね。焦らず、比べず、この子のペースで。桜の季節は毎年めぐってきます。今年の春の、この子だけの歩みを見守りましょう。



句⑤ 夕ご飯 今日のいいところ 三つ探し

新しい環境での一日を終えて、家族で囲む夕ご飯の時間。「今日、どうだった?」と聞くと、「別に」「ふつう」—そんな返事が返ってくることもあります。でも、ちょっと工夫して「今日の良かったこと、三つ教えて」と聞いてみると、「給食おいしかった」「お友達と遊んだ」「先生が笑ってた」—小さな良いことが見つかります。ポジティブな記憶を意識的に言葉にすることで、子どもの中に「楽しかった」という感覚が育っていきます。



いかがだったでしょうか。春は変化の季節。不安もあるけれど、その分、成長の喜びも大きな時期です。子どもの小さな頑張りを見つけ、そっと背中を押してあげられる—そんな親のまなざしが、新しい季節を乗り越える力になります。